

住民に寄り添った支援を目指して

羽島市民生委員・児童委員協議会活動

はじめに

羽島市は、岐阜県南部、清流木曾・長良川に抱かれて、水と緑に恵まれた佳境の地であり、東海道新幹線岐阜羽島駅、名神高速道路岐阜羽島インターチェンジを併せ持つ「岐阜県の玄関」としても大きく発展してきました。

令和5年9月30日現在の人口は66,753人、その内高齢者数は、18,839人、高齢化率が28.2%と、高齢化が進んでいます。

また、羽島市民生委員・児童委員協議会は、10地区の単位民児協で構成されており、民生委員106名、主任児童委員20名で、日々活動しています。(令和5年9月30日現在)

熱中症予防の取り組み

羽島市民生委員・児童委員協議会では、一人暮らし高齢者等見守りの一環として、友愛訪問活動を行っています。昨今の異常とも言える夏季の暑さで、熱中症の危険性が高まる中、熱中症予防の周知・啓発のため、お茶等の飲み物を持って訪問する取り組みを、昨年度と今年度で行いました。毎月行う友愛訪問に加えて、別に訪



問を行うことで見守りを強化し、熱中症予防について呼びかけも行いました。昨年度の実績として、延べ1,419人の方を訪問しました。



令和5年9月 友愛訪問にて熱中症予防について呼びかける様子

地域のこころについて考える (正木地区)

正木民生委員・児童委員協議会では、毎月の定例会終了後、グループワークを行っています。内容としては、自身の地域における課題や、活動中に気付いたことについて話し合い、最後にグループの代表者がその内容を発表し、共有しています。少人数のグループになることで、発言もしやすくなり、発表者も半年に一度全員に回るように工夫をしています。

このグループワークを通じて、地域福祉の増進に繋がり、民生委

員同士で自然とコミュニケーションが取れるので、委員同士の親睦も深まり、連携の向上にも繋がっています。



令和5年9月 正木コミュニティセンター 定例会後のグループワークの様子

小学生児童と一人暮らし高齢者との交流会

(足近地区)

足近小学校では5年生の児童が総合的な学習時間の中で福祉に関する学習をしています。その一環で、令和5年7月に地域の一人暮らし高齢者との交流会「ふれあい遊び」を行いました。一人暮らし高齢者の方々に学校へ招待し、学校の紹介や、児童が考えたトランプやしりとり等のゲームで一緒に遊び、交流を図りました。

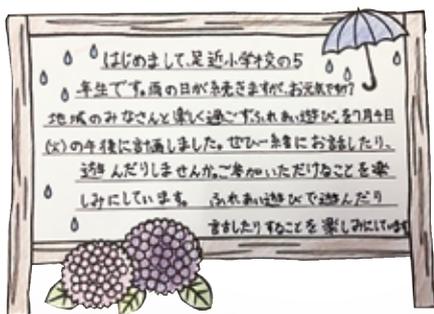
ここ数年は新型コロナウイルスの影響で開催を自粛していましたが、感染防止対策を行い、安心して開催できる方法を工夫することで、今年度から再開されました。

児童たちは交流会開催に先立ち、羽島市社会福祉協議会から高齢者疑似体験セットを借り、疑似体験を行うことで、当日参加する高齢者をどのように誘導すれば良いか、またゲームをする上でどのような配慮が必要かなど、高齢者の立場になって考え、交流会を企画しました。

交流会の開催にあたり、足近民生委員・児童委員協議会の委員は、参加対象者に、児童が作成した交流会の招待状の配布や、当日の会場までの案内等のお手伝いをし、交流会も一緒に参加しました。交流会後も、児童から、暑中見舞いのハガキを頂いたり、運動会の観覧に招待されています。

終りに

これからも、羽島市では民生委員同士の連携を計りながら、日々の見守りを通し、住民に寄り添った支援を目指していきたいと思っています。



交流会の招待状